

普及活動情勢報告（令和6年12月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

SAWACHIデータを使って栽培指導！ ～データ活用勉強会の開催～



専門技術員の説明を聞く
普及指導員

11月15日、農業改良普及課は、I o PクラウドSAWACHIに接続されている環境・出荷データなどを活用した指導技術の向上のため、専門技術員を講師に迎え、若手職員6名を対象に、勉強会を開催しました。

勉強会では、環境データを確認しながら、ハウス内環境の改善方法について指導を受けました。また、日ごろ指導している農家の収量を年度比較し、栽培面の課題について意見を出し合い、指導内容の深堀をしました。

勉強会後は、その内容に基づき現場で指導・助言し、農家の栽培管理の改善につなげることができました。

農業改良普及課では、引き続きデータに基づいた技術指導力の向上を図り、データ駆動型農業の実践に取り組みます。

農業高校での郷土料理伝承会の開催 ～南国地区農漁村女性グループ研究会～



りゅうきゅうの調理方法
よく見てね

11月27日、高知農業高校3年生（36人）を対象とした「郷土料理伝承講習会」に、南国地区農漁村女性グループ研究会のメンバー8人が講師として参加しました。

農業改良普及課は、円滑に講習会が実施できるように事前の調整や当日のグループ員の役割分担、料理材料の分量表の作成等を支援しました。

班ごとにグループ員の講師の指導の下、生徒らは、さばの姿寿司やのり巻き、りゅうきゅうサラダ等11品目を作り上げていきました。

農業改良普及課は、今後も伝承料理講習等の農漁村女性グループ研究会の活動を支援していきます。

ハウスマカンの着花確保のために！ ～温室みかん部会生産対策委員会～



園地巡回で着花を
確認する様子

11月29日、JA高知県香美地区果樹部温室みかん部会が生産対策委員会を開催し、生産者11名が参加しました。

今作の早期加温の極早生園地では、秋季高温による着花不良園が散見されたため、着花確保のための対策について検討しました。

農業改良普及課は、花芽分化に必要な低温遭遇時間や着花確保のための栽培管理を紹介し、加温開始日を慎重に判断するよう指導しました。生産者からは、「栽培がドンドン難しくなっている」「加温日を遅らせて対応するのにも限界がある」等、厳しい現状についての意見が多く出されました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、高温対策技術の実証等、安定した生産が継続できるように支援します。

青ネギ生産に新しい風を！ ～洋菜部会検討会～



生育の差に驚く生産者

11月29日、J A高知県香美地区洋菜部会が青ネギの検討会を開催し、生産者25名が参加しました。

農業改良普及課は、市況や消費動向、冬春の病害虫防除、冬場の葉先白化症について説明しました。また、長年の株分けによる栄養繁殖中に感染したウィルス病が原因と考えられる生育不良が問題となっており、前回説明したウィルスフリー苗と通常苗を比較栽培したものを会場入り口に並べ、参加者に見ていただきました。

参加者からは「ウィルスフリー苗がこんなに生育がいいなんて」「ウィルスフリー苗の導入を検討する」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、青ネギの生産安定に向けて支援します。

農福連携促進を協議 ～「畝の会」～



熱心に受講する参加者

「畝の会」は香美市での農福連携促進を目的に農業・福祉の関係機関や事業所等をメンバーとして令和5年に発足しました。農業改良普及課は福祉保健所と連携して、発達障害者の特性を理解を深めるための研修会を12月2日に行い、21名が参加しました。

高知県発達障害者支援センターの酒井氏を講師に迎えた研修会では、脳の機能障害である発達障害は、物事の見え方や捉え方が違うため、その特性を理解した対応が必要であることを豊富な実例により学びました。また、実際にどういった見え方がするのかなどを体験を交えて実感することができました。参加した農家からは、受入の時には作業をやりやすいように補助具の活用も考えていきたいという声がありました。

農業改良普及課では、各関係機関と連携し受入側の障がいへの理解が進むように支援していきます。

酷暑に負けない米生産に向けて ～稲作部反省検討会～



反省検討会の様子

12月3日、J A南国市稲作部が反省検討会を開催し、生産者17名が参加しました。

会ではJ Aから米穀情勢と出荷状況について、農業技術センターから高温対策について説明がありました。

農業改良普及課からは、主食用米生産に関するアンケートへの協力のお礼と、農作業安全についての注意喚起を行いました。

アンケートの関心事項でも聞き取ることにしていますが、特に高温対策について生産者の関心が高く、「他県の高温に強い品種を導入できないか」、「現在の品種でできる高温対策はないか」といった質問が聞かれました。

農業改良普及課は、関係機関と連携してアンケートで把握した産地課題解決や高温対策に取り組みます。